

グループ理念

—— 経営理念 ——

- 京急グループは、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
- 京急グループは、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進をめざす
- 京急グループは、グループの繁栄と全員の幸福との一致を追求する

—— 行動指針 ——

- 安全・安心を最優先し、感謝と誠意をもって、顧客の信頼を獲得しよう
- たえず研鑽し、進取の精神をもって、可能性に挑戦しよう
- 誇りと責任をもち、相互の信頼を深め、仕事に取り組もう

サステナビリティ基本方針

京急グループは、グループ理念のもとで、「社会の持続的発展への貢献」と「京急グループの持続的発展」のよりよい循環を目指します。

—— テーマ ——

- 人・社会・地球にやさしく持続可能な都市生活を創造します。
- 多様な人材が活躍する企業を実現します。
- 全ステークホルダーと適切な協働を図り、コーポレートガバナンスの持続的な強化を図ります。

第19次総合経営計画

長期ビジョン（2035年度に目指す将来像）

日本全国、そして世界とつながり、日本発展の原動力である品川・羽田・横浜を成長トライアングルゾーンと位置付け、国内外の多くの人々の生活と交流を支え、持続的に発展する豊かな沿線を実現する



第20次総合経営計画

長期ビジョン（2040年度に目指す将来像）

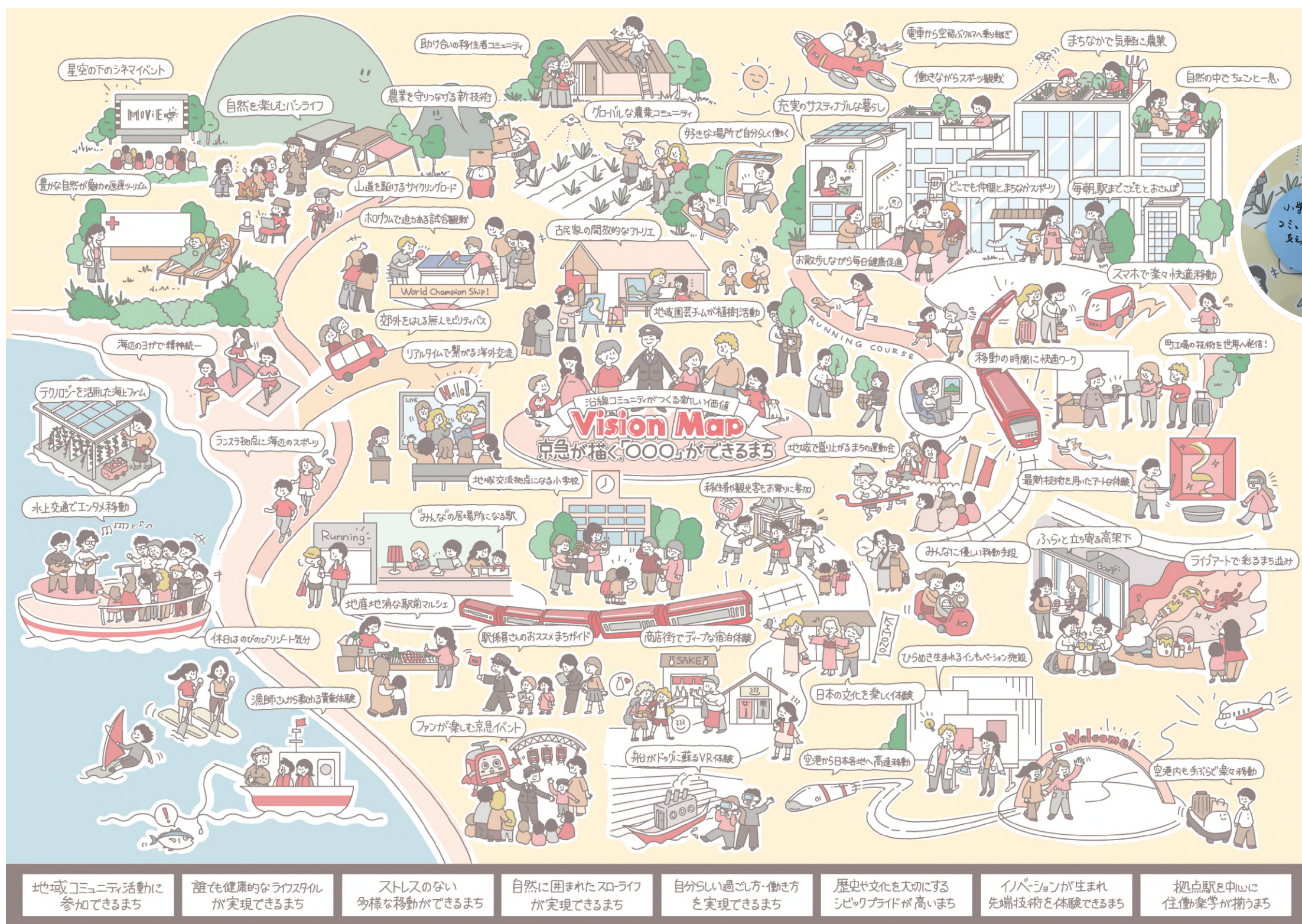
「移動」と「まち創造」2つのプラットフォームが織りなす
相互価値共創のスパイラルアップにより持続的に発展する沿線を実現する

京急 Vision Map

第20次総合経営計画に基づき、京急グループが目指す沿線の姿・イメージを
「京急 Vision Map」として策定しました。
移動プラットフォームとまち創造プラットフォームの相互価値共創により、
ビジョンマップに描く未来を実現していきます。

持続的に発展する 豊かな沿線の実現を目指して

京急グループは、2024年度から第20次総合経営計画をスタートしました。
グループ理念・サステナビリティ基本方針のもと、持続的に発展する豊かな沿線の実現を目指して、
多様化する社会課題や価値観に対応した価値共創への取り組みに挑戦していきます。



みんなで描く、京急 Vision Map

京急グループは、第20次総合経営計画において、2040年度に目指す将来像である新しい長期ビジョンを策定しました。この長期ビジョンの実現に向けて、目指す沿線の姿を具現化するとともに、グループ全社員が共通のイメージを持ちながら事業活動を推進するため、「京急 Vision Map」を策定しています。

このビジョンマップは常に変化する社会環境や事業環境に応じてブラッシュアップしていくものと考えており、社員や地域の皆さまなど、ステークホルダーの声をもとに今後もアップデートを図っていきます。また、ビジョンマップに掲げるような顧客価値起点の事業推進によって、長期ビジョン実現を目指します。



グループ社員による“描く未来”のアイデア出し

2024年度には、顧客価値起点の事業推進を目指したグループ全社員の意識統一を図ることを目的に、ビジョンマップについて、どのような沿線を実現したいか、また、そのために当社グループは何をすべきかという質問に基づき、意見集約を行いました。寄せられたアイデアについては、今後ビジョンマップをアップデートしていく際にも参考としていきます。

社員から生まれたアイデアの一例

Q1 どのような沿線・まちになれば、お客さまが選んでくれると思いますか？

- ・移動手段の選択肢が多いまち
- ・古いものと新しいものが混在して魅力を生み出すまち
- ・災害に備えた防災備蓄があり、復旧力が強いまち
- ・それぞれの地域に誇れるシンボルがあるまち
- ・自然との共生を体験・学べるまち

Q2 「未来のまち」を創るために、自身の業務や京急グループとしてどのようなことができますか？

- ・困った時に相談できて頼りになる駅をつくる
- ・再開発だけではなく地元の商店街を再生させる
- ・多世代が交流できるイベントの開催
- ・興味をそえられるような積極的な情報発信
- ・農業への参入



CONTENTS

SECTION

01

京急グループが思い描く未来

- 01 持続的に発展する豊かな沿線の実現を目指して
- 03 みんなで描く、京急 Vision Map
- 05 目次・編集方針

POINT

120年以上の歴史のなかで、地域社会や暮らしの変化に寄り添いながら事業活動を展開してきた当社グループが大切にしている価値観を紹介します。また、2040年度を目指す将来像である「長期ビジョン」の実現に向けて、当社グループが描く将来の沿線の姿を具現化し、そのイメージをグループ全社員で共有するために策定した「京急 Vision Map」を掲載しています。

SECTION

02

価値創造に向けた決意

- 07 社長メッセージ
- 13 経営戦略室長メッセージ

POINT

2023年度を最終年度とする第19次総合経営計画の振り返りと、2024年度からスタートした第20次総合経営計画の推進に向けた決意や将来描く沿線像などについて、当社取締役社長および経営戦略室長によるメッセージを掲載しています。経営層が描く当社グループの価値創造ストーリーを読者の皆さまと共有します。

SECTION

03

価値創造に向けて

- 17 歴史とともに培われた京急グループの強み
- 21 価値創造モデル
- 23 サステナビリティ重要課題と非財務KPI

POINT

創業時から地域社会とともに歩み、沿線地域の発展に貢献してきた当社グループの歴史と、その長い歴史のなかで培ってきた強みが、当社グループの価値創造の源泉となることをお示しします。また、事業環境の変化等を踏まえ、2024年度に改定した価値創造モデルおよびサステナビリティ重要課題と、重要課題に紐づく形で新たに設定した非財務KPIを紹介します。

SECTION

04

成長戦略

- 京急グループ総合経営計画**
- 25 第19次総合経営計画の振り返り
- 27 第20次総合経営計画の全体像
- 29 沿線価値共創戦略
- 33 事業構造変革
- 38 顧客視点の徹底
- 39 財務マネジメントの強化
- 事業別概況**
- 40 交通事業
- 41 不動産事業
- 42 レジャー・サービス事業
- 43 流通事業
- 44 その他の事業
- 特集：品川駅周辺開発事業**
- 45 品川を日本の成長を牽引する国際交流拠点へ
- 47 社員座談会

POINT

2024年度からスタートした第20次総合経営計画について、計画の全体像と重要なポイントをご説明します。また、特集として「品川駅周辺開発事業」を取り上げ、プロジェクト概要を紹介するほか、プロジェクトに携わる社員による座談会を開催し、事業にかける想いや担当者が描く将来の品川エリアのイメージなどについて話を聞きました。

SECTION

05

サステナビリティ

- 49 サステナビリティに対する考え方
- 50 環境への取り組み
- 53 安全輸送確保への取り組み（鉄道事業）
- 55 人財への取り組み
- 58 サプライチェーンを含む人権尊重への取り組み
- 59 マネジメント体制
- 61 コーポレートガバナンス
- 69 社外取締役座談会
- 73 リスク管理・コンプライアンス

POINT

地域社会に密着し、社会生活を支え、豊かにする当社グループの事業は、まさにサステナビリティへの取り組みそのものだと思っています。環境や安全、人財への取り組みのほか、新しい取り組みとして「サプライチェーン全体における人権尊重」についても紹介しています。また、2024年度も社外取締役座談会を開催し、第20次総合経営計画の内容や推進に向けて必要な要素について話を聞きました。

SECTION

06

財務・会社情報

- 75 連結経営指標の推移
- 77 会社概要・株式情報
- 78 グループ会社一覧

編集方針

本統合報告書は、2024年度にスタートした第20次総合経営計画において、当社グループが2040年度を目指す将来像である「長期ビジョン」の実現に向け、サステナビリティ経営を軸とした社会価値・企業価値創造への取り組みについて、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに広くご理解いただくことを目的として発行しています。また、本統合報告書を通じたステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションにより、さらなる企業価値の向上につなげていきます。

報告対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日（一部取り組みについては、それ以前のものや最新の内容も含んでいます。）

報告対象組織

京急電鉄を中心とした京急グループ45社

発行時期

2024年11月

ガイドライン

本統合報告書は、以下のフレームワークおよびガイドラインを参考にしています。

- ・IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- ・経済産業省「価値協創ガイダンス」
- ・GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- ・TCFDコンソーシアム「気候関連財務情報開示に関するガイダンス3.0」

将来の見通しに関する注意事項

将来の見通しに関する記述は、本統合報告書作成時点（2024年11月）における当社の見解であり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績等は、リスクや不確実な事象によって当社の見込みとは異なる可能性があることにご留意ください。



価値協創ガイダンス
Guidance for
Collaborative Value Creation